

講演会・勉強会アンケート調査結果について

1. 回答状況

回答数／参加者数

全体…………… 45名／88名 (51.1%) (前回 55名／111名 49.5%)

所属別

・学校関係者…………… 23名／35名 (65.7%) (前回 35名／49名 71.4%)

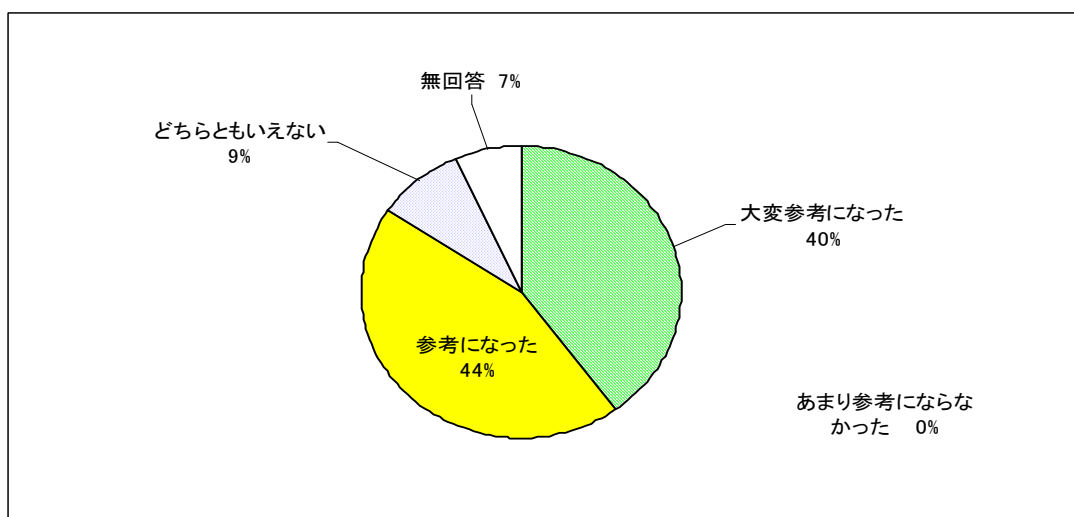
・企業・団体関係者…………… 22名／53名 (41.5%) (前回 20名／62名 32.3%)

※ 回答の集計は学校関係者への質問【講演会 質問③～⑤】は学校関係者からの回答、それ以外は回答者全員の回答を集計した。

2. アンケート結果

《講演「大学への期待と不安」～「理系白書」を通して見た大学教育の憂鬱～についての質問です》

【質問①】この講演は参考になりましたか？



【質問②】講演で最も参考になった点は何ですか？

[学校関係者]

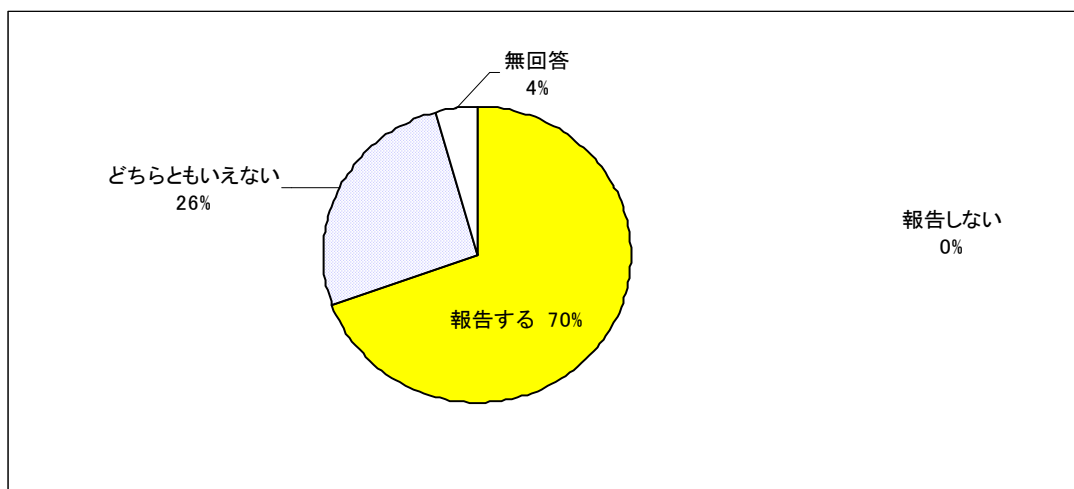
- * 理系の待遇が文系に比し大きく劣っているという事実と、それを何とかしなくては行けないという問題意識を持ったこと。
- * (逆説的に)現状の社会的価値観等が激変しない限り、変える余地がないのではということ。
- * 大学の理工教育に期待することは理解できる。社会全体がそのように動くことの大切さと、大学自体の努力の必要性を強調されていたのが、特に印象的であった。
- * 「技術大国」日本の置かれている危機的状況が再認識できた。
- * 企業が大学に望むこと。研究者に期待する資質。
- * 「科学」を「語る」ことのできる人材はあらゆる分野で不足しており、大学がその一端を支えるべきであるとの指摘でしたが、そう思います。
- * イノベーション(技術革新)の時代に、倫理教育をバランスさせることの重要性を指摘した点。理系と文系との協働。
- * イノベーションの基本戦略。
- * 「今の教育に欠けているものは当事者意識である」という指摘。
- * 文系・理系を分けない…。当事者意識を持つ。

- * ゆとり世代が教員になる時代 → なかった視点。理系の大学として、ますます危機感が強くなった。
- * 個人の資質と組織の資質に分けて研究費の執行・管理を区分することが重要であることが理解できた。
- * 大学の変化・改革の最後の機会ではないか。

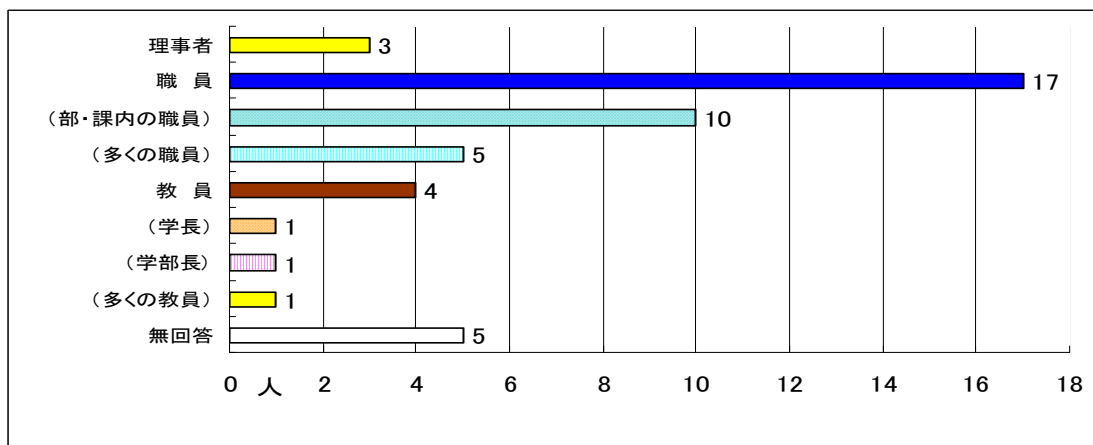
[企業・団体関係者]

- * 理系教育の充実は、「エンジニアを作るのではなく、理系のアタマを持った社会人を作る」と言われたのは、印象的でした。一見すでに分かった様に思えたテーマですが、豊富なデータで、現状を再認識させていただきました。 (証券)
- * 特別なことではなく、全体像が分かった。理系の課題、理系離れの状況を理解できた。また、当たり前前を当たり前前にできていない現状が明確になった。 (コンサルティング会社)
- * シンプルなロジックに基づく話で、自分の考えの整理につながった。 (コンサルティング会社)
- * 研究・コンサルティングフィールドの視野で拡大した。 (コンサルティング会社)
- * 学部の壁は他国でも同じ。アカデミズムの限界。 (コンサルティング会社)
- * 日本の競争力を維持するとは何か？という視点から興味深い話でした。皆がそれぞれの立場で当事者であるとの講師の発言に同感です。 (銀行)
- * 質問者2人の方に対して、「(その質問ににじむ)当事者意識の欠如こそが問題。自分が何をできるかを前向きに具体的に考えましょう」という意味のことをおっしゃったのは、痛快だった。

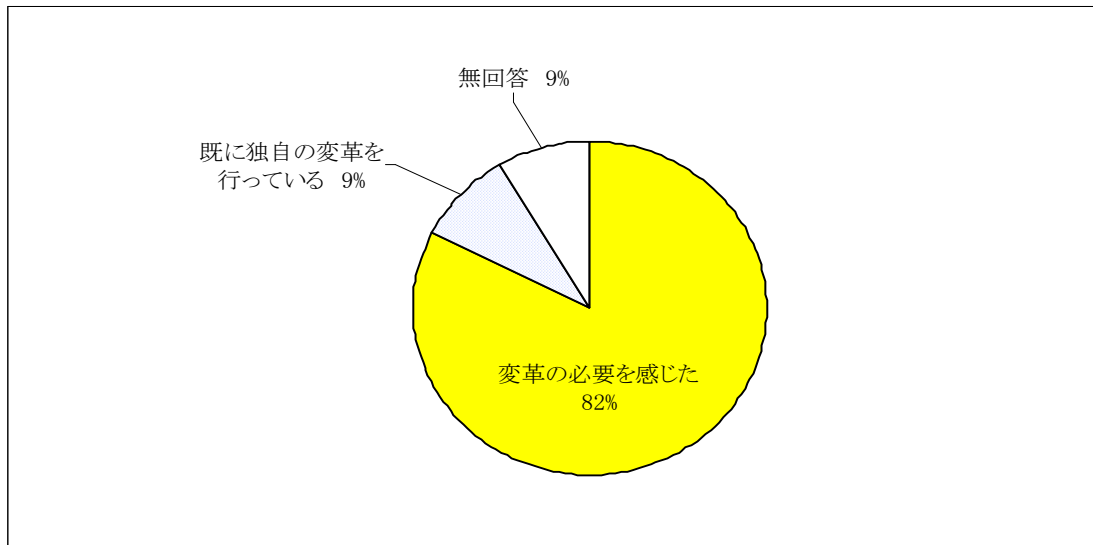
【質問③】 この講演について、学内で報告をされますか？ (以下、大学関係の方への質問)



【質問④】 報告をする場合、誰を対象に行いますか？ (複数回答可)



【質問⑤】あなたは、この講演を聞いてご自身の大学の変革の必要性を感じられますか？



【質問⑥】この講演を聴き、これからの学校はどうすべきか、率直なご意見をお寄せください。

(企業の方を含め自由記述)

[学校関係者]

- * 個々の大学の目先の努力の積み上げでは限界に近いと思われ、政・官・財、国立・私立が縦横連携して大きく流れを変える必要あり。
- * 教育内容・教育システムを変えなければいけない。大学だけでなく、産業界・政界など社会全体で変革を進めていく動きが創り出していけたらと思う。
- * 理系離れは、初等教育時に理科と算数を公立学校中心に指導要領どおり進めた結果、苦手になりましたが、中学校等では理科はともかく、数学が嫌いになったというのが、理系離れを起こしている現状です。大学においても、もう一度、興味を湧かせるような教育を行いたいと思います。附属高等学校でも、もう一度、教育内容を検討したいと思います。
- * 人間教育の重視。
- * 理系・文系ともに4年間の教育力をどう高めるかの仕組み作り。
- * ① 「大学は学校化して良いか」「大学は何か」という理解なしに、企業理論を適用した場合は大学でなくなることも考慮する必要がある。マスタープランによる分類化を大学、社会、家庭は受け入れられるのか。親は自分の子を良い大学に入れたいと考えているが。
 - ② 補助金システムの変更、指標、尺度のあり方
- * 文・理の才能を統合化させる必要。カリキュラムの統合。
- * ① 文理融合型プロジェクトを促進するための学内風土改革を。(学部間の壁、教・職員間のコミュニケーション不足)。
 - ② 今や理工系研究環境が「装置産業」化している中、初期投資を容易にする公的システムの開発
- * 工学部を有し、かねてより科学・技術者教育(専攻を複数にする、幅広い科目を選択できるようにする等)の改革を実施しようとしている。その成果を見守りたい。
- * 教員の教育といひましようか、FD(※)というものがおそらく大事であると思います。
 - ※ faculty development ……大学等の理念・目標や教育内容・方法を改善するための組織的な研究・研修などの取り組み

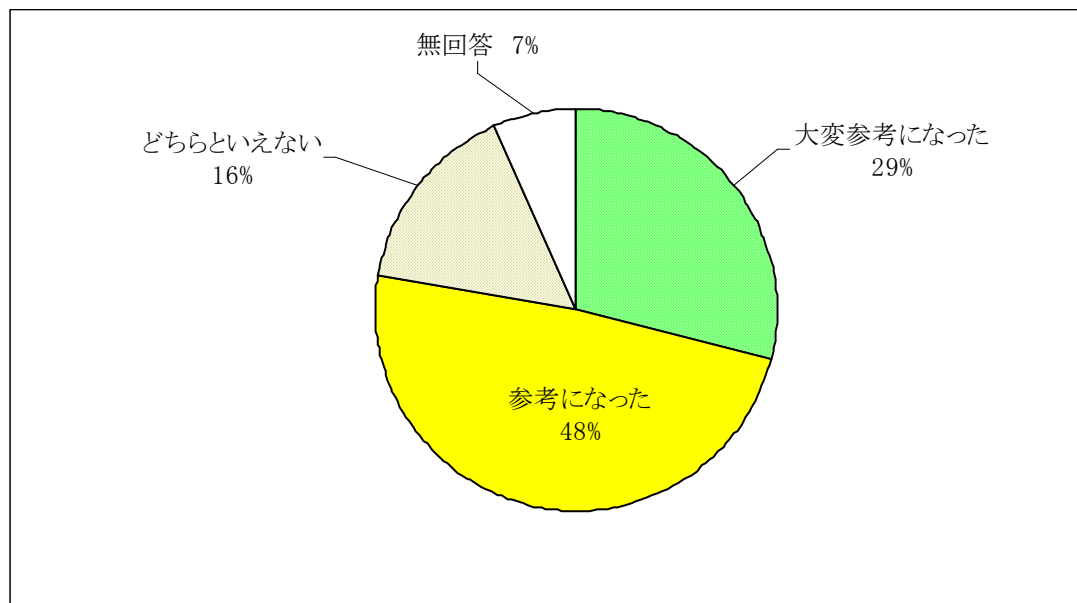
* 理系分野の新たな開拓分野への模索について。

[企業・団体関係者]

- * (学校教育制度の問題から詳細な技術的問題まで様々な改善点はあると思いますが。) 学生が勉強の必要性・有用性を実感できていない点も大きいと思いますので、あらゆる世代・職種の人のお話を聞くことができるような場にしていく必要もあると思います。教室が担任と生徒だけの閉鎖的空間だと飽きると思いますし(特に、初等・中等教育)…… (証券)
- * 私達のような30歳代の金融機関マン(特に、企画やリサーチ担当)だと、理系と文系の融合的発想が高い付加価値を生み、結果としてお客様の評価を得られる、という事実です。丁度、大学教員と学生の間年齢ですので、先生が指摘された様な問題が良く見えるためだと思います。 (証券)
- * ① 基本方針の策定(現状の中期計画等とは異なるマーケティング思慮が入った計画)
② 文科省や世論への課題の告知 (上記基本方針の遂行に関する課題)
③ 強烈的な改革の意思と学内共有化 (コンサルティング会社)
- * 講演者が話したとおり、責任転嫁せず、逃げずに学生(子供)たちに向かうべき。小学生からの理科教室は積極的に大学が関与すべき。 (コンサルティング会社)
- * 文系・理系の学部の融合を加速すべきであると思われる。総合政策学部をもっと増やすべきである。文理を超えた問題を思考し、解決へ導く人材育成が必要不可欠であると思われる。(不動産関係)
- * 当事者意識を全ての学校関係者が持ち、主語と目的語を意識して会話すべき。

《勉強会第一部「大学における研究費不正使用対策の留意点」～体制構築をどう行い、実践していくべきか～についての質問です》

【質問①】この講演は参考になりましたか？



【質問②】最も参考になった点は何ですか？

[学校関係者]

- * 大学の身丈にあった制度の設計が必要との見解に賛成です。
- * 文科省のガイドラインどおりだと、仕事は動かない。規程が現状に合っているかの検討も含め、それぞれの大学に合った体制を構築する必要がある、という指摘。

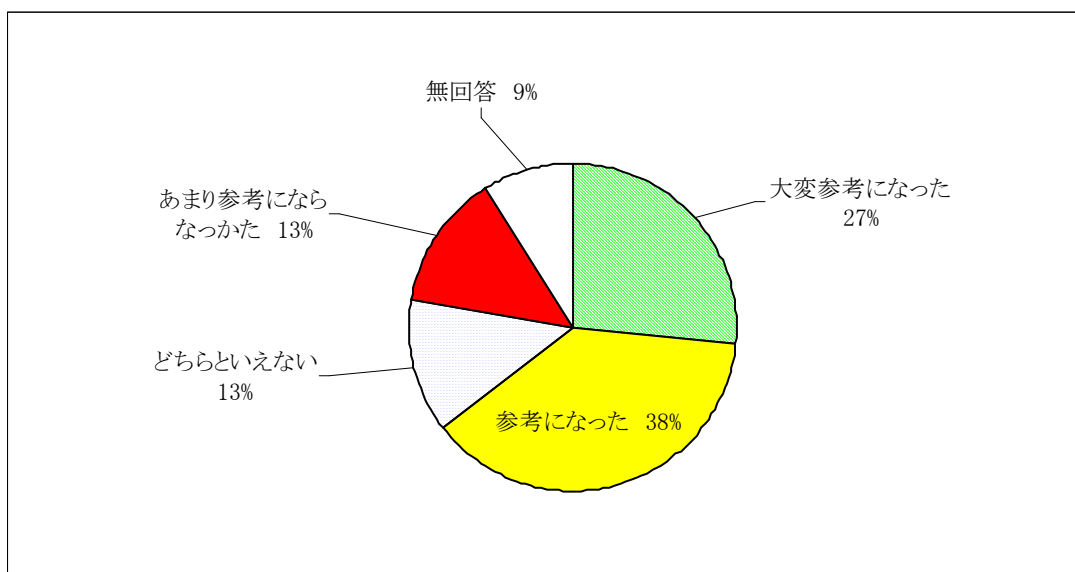
- * 文部科学省の考え方について公認会計士の専門的な意見を交えて理解できたこと。
- * ガイドライン実現化への道筋が良く見えた点。
- * 今後のガイドラインに対する対応。
- * 科学研究費の経理担当者であるので、この資料を参考にして、体制を整備していきたい。
- * 単年度予算主義の問題。期間経理の是正が可能なのか。
- * 支出のチェックの厳格化と支給期間の考え方の変更の必要性。
- * 大学独自の不正対策の構築。
- * 内部統制の考えがつかめたことです。お急ぎであったか、ご発言にエラーが多かったのが残念です。

[企業・団体関係者]

- * 初めて、体系的に問題を据えられた。時系列順の説明、今後の具体的な取り組み方に関する考え方が参考になった。
 - * 大学経営におけるコンプライアンスのあり方と、金融機関におけるその違いについて認識することができました。 (証券)
 - * 内部統制については企業が先行しているが、必ずしも全てが順調に進んでいるとは思えない。単純な企業の写しではなく、独自の動きを見せている点など分かりやすい説明だった。 (証券)
 - * このテーマについて勉強不足だったため、論点整理に役立ちました。 (証券)
 - * 申し訳ありません。さすがにこの分野・テーマには接点がないので……。但し、植草先生のデータ情報とプレゼンは大変素晴らしいと思いました。 (証券)
 - * 配布資料全体が大変充実していた。 (コンサルティング)
 - * 不正の発生要因。Ex.預け金 (コンサルティング)
 - * 結局、結論がよく理解できなかった。 (コンサルティング)
 - * CSR・USR(※)にしる、社会的責任のペーパー部分の記事に大変関心を持ちました。麗澤大学のホームページを後日見てみたいと思います。 (不動産関係)
- ※ CSR……企業の社会的責任 USR……大学の社会的責任

《勉強会第二部「大学の経営戦略について」～マーケティング的アプローチによる入学者の確保～
 についての質問です》

【質問①】この講演は参考になりましたか？



【質問②】最も参考になった点は何ですか？（自由記述）

[学校関係者]

- * 対象者を明確にせよとの指摘。
- * モレ分析。
- * 「モレ分析」の考え方。
- * モレ分析手法。
- * モレ分析手法について参考になりました。
- * モレ分析の手法によって、本学のマーケティングの即行性を考えることができるため。
- * 入り口の戦略が最も重要である点。
- * この様な考え方もあるという点。
- * 「モレ分析」手法を入学者の確保にむけての考察は初めて拝聴した。国立大学としては中長期的な戦略が必要と考えている。次回、田中氏に期待したい。
- * 企業との対比。
- * 戦略化。
- * 大学も経営というものをもっと知らないといけないと思った。

[企業・団体関係者]

- * 企業経営的な観点からの大学経営の解説が一般企業に属する私にとって違和感無く勉強することが出来ました。 (証券)
- * 具体的なお話しがあると、イメージし易かったと思います。 (証券)
- * やはりモレ分析。ステップ①のトータル・マーケットを「全てのマーケット」と混同しているケースが、企業でも非常に多い。 (証券)
- * 大学への「モレ分析」の応用が非常に興味深かった。 (証券)
- * 田中先生のご専門が企業コンサルであるため、少し、大学への当て嵌めで突っ込み感が足りないと思いました。今後 O-MA 側の既存の大学の知恵と先生の知恵を合わせればよいものが出れると思います。 (証券)
- * モレ分析は大変分かりやすく、①～⑧のステップに対するロードマップが描けるものである。 (コンサルティング会社)
- * モレ分析のミス・ポイント (コンサルティング会社)
- * 普通の理論にすぎる。特に素晴らしい論点はない。 (コンサルティング会社)
- * 学生募集上、マーケティング志向を持ち、戦略・戦術を策定・実行するのは、今では当然である。特に、専門学校で募集戦略は大学よりもマーケティング的である。いささか情報が遅い。 (コンサルティング会社)
- * 大学全入時代に伴い、学生のレベル、卒業生のレベルなどの知的財産が維持できない大学が増加し、一層の大学の勝ち組・負け組の差が明確になることによって、実社会への与える影響が今後、心配と思われる。 (不動産関係)
※ CSR……企業の社会的責任 USR……大学の社会的責任

今後、取上げて欲しい勉強会のテーマや講演についてご記入ください。（自由記述）

《勉強会テーマ》《講演テーマあるいは講師》

[学校関係者から]

- * コンプライアンス * 学校法人における資産運用の現状(講師:証券会社の公共事業部等)
- * 収益事業への取り組み * 大学評価(講師:大学基準協会) * FD

- * 大学の倒産のさせ方や、倒産大学の事例紹介
- * 補助金制度のあり方(個人補助、機関補助)

[企業関係者から]

- * 大学全入時代、規制緩和と市場原理の中で急速に進行する学部・学科改編と志願動向の変化
- * 米国以外の大学の資金運用の実態

(参考) 前回までのアンケート時の勉強会のテーマおよび講演の希望

- * 「財務比率の推移・分析」 * 「財務分析と財政安定の方策(各大学のデータに基づく)」
- * 経営判定指標、財務比率の分析(地域別・規模別等)(済) * 財務分析
- * 学校法人会計基準改正後の各校の動向・変化
- * 財政再建 * 中期的財務戦略 * 財政計画について * 早稲田再生
- * 「人件費削減」 * 給与体系、退職金 * 教職員の業績評価と報酬
- * 「施設有効利用」 * 「大学施設改善と大学経営」
- * 「資産運用で実績をあげている他大学の事例とリスク管理の具体的手法」(済)
- * 「財務運用に関しての学校法人の悩み」 * 「資金運用商品の特性(メリットとデメリット)」
- * 「外部資金調達」 * 「2005年頃実施の運用資産アロケーションの再調査」
- * ディリバティブ商品による運用の実態 * 運用リスクの評価
- * 金融資産以外の運用例 * 学者(研究者)によるファイナンス理論
- * 有価証券運用における取引業者選定について * アメリカの大学の運用事例(済)
- * 積極的資産運用の必要性について(講演テーマ:資産運用に向けた組織構築について)
- * リスクマネジメント * 今後の収益事業 * 現状の問題点の具体的案
- * 教学の活性化とは何か * 如何に志願者を集めるか * 教職員の意識改革法
- * 新商品(学部・学科)の開発、手法 * 学校価値向上に関する方策等
- * 大学のブランディング戦略 * 大学の生き残り
- * 下位大学の学生募集(ブランド力の弱い大学・新設校対策は?)
- * ネット広報・新メディア広報の利用について
- * 奨学金について * 学校債 * ブランディング * 難関大学のプロモーション活動
- * 大学の個別運用事例を纏めたもの(かつて当協会で行ったアンケート調査の最新版等、
可能であればNACBO調査報告の日本版ができれば有難い)

以上